

別記様式第1号（第5条の2関係）（用紙日本工業規格B列4）

組換えDNA実験（組換え体作製・増殖実験）計画書

(注1)

実験責任者	所属学科・職	
	氏名	(印)
連絡者 (注2)	所属学科・職	
	氏名	

課 題 名	
実験実施期間(注3)	平成 年 月から 平成 年 月まで
実験の主目的(注4)	

作 製 実 験	D N A 供 与 体		宿 主 (注6)	ベクター (注7)	封じ込め レベル (注8)	蛋白毒素 産生能 (注9)	備 考 (注10)
	供与体生物 及びDNA の 種 類 (注5)	クローン化 しようとするDNAの 種 類					

増 殖 実 験 ・ 大 量 培 養 実 験	クローン化するDNAの由 来 (注11)	宿 主 (注6)	ベクター (注7)	封じ込め レベル (注8)	蛋白毒素 産生能 (注9)	備 考 (注10)

実験場所	名 称	
	所在地	
物理的封じ込めに係る施設・設備	位 置 (注12)	
	構 造 (注13)	
	設 備 (注14)	

実験従事者	氏 名	所属学科・職	病原微生物取扱い経験 (注15)	組換えDNA実験経験 (注16)
実験経費(注17)		科学研究ひ補助金 受託研究費	特定研究経費 その他	奨学寄附金
その他参考となる事項 (注18)				
安全委員会の本実験 計画に対する意見				
		安全委員会委員長の 所属学科・職		氏名 (印)

別記様式第1号(第5条の2関係)(用紙日本工業規格B列4)

- (注1) 記入不要
- (注2) 連絡者の所属学科・職・氏名を記載のこと。
- (注3) 5年以内とする。
- (注4) 実験を行う目的、必要性を具体的かつ簡明に記入すること。
- (注5) 供与体の種名、系統名及び用いるDNAの種類を記入すること。
- (注6) 由来と系統名を記入すること。文部大臣の認定を受けた宿主-ベクター系のうち、認定に際して系統名が明記してある系統名については、系統名のみを記入すればよい。
- (注7) 由来と種類を記入すること。文部大臣の認定を受けた宿主-ベクター系のうち、認定に際して種類が明記してある種類については、種類のみ記入すればよい。
- (注8) 物理的封じ込めレベル及び生物学的封じ込めレベルを記入すること。ただし、未認定の宿主-ベクター系を用いている場合には、別記様式第4号の未認定の宿主-ベクター系の使用計画書を作成し、添付すること。
- (注5-注8) 同一課題内において、供与体と宿主-ベクター系の組合せが複数となる場合には、それぞれの組合せごとに記入すること。
- (注9) 有無について記載すること。有の場合はLD₅₀の値を記入すること。ただし、LD₅₀は100ng/Kg体重以下ではないことを確認すること。
- (注10) 別紙に掲げる文部大臣の承認事項のうちから該当するものを選択し、番号を記入すること。
- (注11) DNA供与体生物、DNAの種類、DNAの性質、作製者、年月、掲載文献等を記入すること。
- (注12) 実験室あるいは実験区域の位置を図示すること。
- (注13) P3以上の施設について記載すること。
- (注14) P2以上の施設について記載すること。
- (注15、注16) 有、無について記載すること。
- (注17) 該当するものを で囲むこと。その他は、教員当積算校費である。
- (注18) 同一実験責任者が類似の実験の承認を受けた実験がある場合は、その旨を記入すること。

別紙

文部大臣の承認事項

1 動植物培養細胞を宿主とする場合の生物学的封じ込めレベルの変更

2 組換え体増殖実験のレベルダウン

機関承認実験において作製した組換え体を増殖させる実験で、物理的封じ込めのレベルを2段階下げた実験

3 大量培養実験のレベルダウン

3-1 生物学的安定性が特に高いことが確認された組換え体を用いる実験をL S - Cレベルの物理的封じ込めで行う実験

3-2 生物学的安定性が特に高いことが確認された組換え体を用いる実験を指針の付属資料第1の に示す物理的封じ込めのレベル以外の特別の物理的封じ込め方法で行う実験